

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0891600140		
法人名	医療法人社団栄進会		
事業所名	いきいきの家笠間【愛宕ユニット】		
所在地	茨城県笠間市笠間4386-1		
自己評価作成日	2022年9月1日	評価結果市町村受理日	2023年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0891600140-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0891600140-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2022年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笠間駅から近く、近隣にコンビニや病院、薬局等が隣接されている為、立地が良い。 施設の中庭にシンボルツリーのしだれ桜が植えてあり、施設内からでもお花見ができる。 今年度もコロナ対策の為、あまり外出行事は行っていないが、施設内で楽しめる行事を多々実施している。 入居者様の状態により、関連施設への受け入れ支援も行える。 グループホームでの終末を希望される方には、看取りも可能です。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅に近く、病院や薬局にも近い利便性のよい住宅地にある平屋の事業所である。広い敷地には畑が作られ、訪問調査日は大根が大きく育っていた。近隣の神社境内には桜の花を見に散歩に行く。職員は理念をよく理解し、利用者の思いに沿った支援に努めている。利用者がご飯が毎日おいしいと笑顔で話してくれた。コロナ禍でボランティア訪問や地域との関わりを持つことが難しくなっているが、職員は週2回抗原検査を実施し、利用者が事業所で安心して生活できるよう配慮していた。*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の【いつまでも自分らしくいられる生活】を目標にかかげ、タイムカード横の職員が目にする箇所に掲示し共有している。	理念は職員がいつでも見られる場所に掲示している他、職員の人事評価シートにも理念に関する項目があり、半年毎に個人の意識を確認している。職員からは、個人の希望するレクや行動を支援するようにしていると理念をしっかりと意識している話が聞けた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ対策の為、地域行事の参加はない。	地域の行事やボランティアの訪問等が、コロナ禍で中止になっており、利用者が地域の方と接する機会がなくなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度もコロナ対策の為、地域交流は制限している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。 行政職員・地区会長・居宅ケアマネ・近隣薬局職員・ご家族に参加していただいている。	2ヶ月に1回、利用状況や事故報告、行事報告等を議題として開催しているが、コロナ禍の間は短時間で済ませるようにしている。家族の参加が少ないが、開催通知や議事録を送付して内容の周知を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営についての相談を随時行っている。 社会福祉協議会の共同事業にも参加。	介護保険や介護用品の申請等で市役所に出向いており、市職員とは良好な関係が築けている。現在、グループホーム連絡会は開催されていないが、必要に応じて他事業所と電話で連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束廃止にむけての委員会を開催。定期的に研修も実施。 玄関は夜間以外は解錠。	毎月の委員会で身体拘束の実情を把握している。車いすでベルトを着用している方がおり、委員会やカンファレンスで状況を話し合い、解除できた例もある。拘束に関する指針を整備し、拘束が必要な方については、定期的に家族に説明し、同意を得ている。身体拘束や虐待についての勉強会を毎年実施し、職員の意識向上を図っている。	

茨城県 グループホームいきいきの家笠間

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修により、注意喚起を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を通して知識を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書にそって説明をしている。 定めのない事項においては、随時話し合いにて決定している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱の設置。 来訪時や電話、メールにて意見を聞く機会もあり。	窓越しや仕切り板を設けて面会を実施している。オンライン面会は実施していない。写真付きの通信を家族に送り、行事等の様子を知らせている。家族や利用者からの意見は特にない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや面談により、意見を聞いている。	職員が気付いた時に直接意見を言うことが多い。半年ごとの面接では、目標管理の他、家族のことや働き方などの話も聞いている。職員からの意見を受けて脱衣所にエアコンを設置し、利用者や職員から好評である。職員からは、職員同士で話しやすい環境があり、管理者にも意見を言いやすく、働きやすいとの話が聞けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回給与の見直し。 有給休暇・特別休暇を遠慮なく消化できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修やオンライン研修を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	随時、訪問や電話等にてやりとりをしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望を確認し、可能なかぎり希望にそえる取り組みを実施。 コミュニケーションをとる時間を大事にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも遠慮なく、来訪や電話、メールにて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況により関連施設の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の一部を一緒に行うことで、役割を持って生活をしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	要望があれば、すぐに家族と連絡をとれる体制ができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会も可能。 手紙のやりとりも可能。	友人や知人も、家族の了解を得られれば面会が可能。長く訪問理美容を利用しており、美容師と馴染みの関係となっている。物品を届けるときに必ず伝言のメモを添えてくれる家族がおり、利用者が喜んでいて。家族が新聞を届けてくれる利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で、他者と関りをもてる場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば、随時対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、希望や要望を確認し、実現できるよう検討している。	パンを食べたいとの声や散歩やレクなどの希望には可能な限り沿うようにしている。「みてあげからご飯食べてきていいよ」など、利用者から職員へ声がかかることがある。思いを伝えられない方は、表情などからくみ取っている。懐かしい音楽を流し、心地よく過ごせるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りをし、馴染みの生活に近づけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録やカンファレンス等を通し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを実施し、ケアの見直しやニーズの確認を行っている。	半年毎に職員が話し合いながらアセスメントを実施してケアマネがプランを作成、入院や様子に変化があった時には、その都度プランを見直している。担当者会議を行い、定期的にモニタリングを実施している。家族には、面会時に説明してサインをもらう。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、医療記録をもとに情報共有している。		

茨城県 グループホームいきいきの家笠間

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により関連施設の紹介を行う。 医療面に関するニーズは、他事業所と連携し対応できる体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事等はコロナ対策の為、未実施。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの通院先の病院を利用。 状態により往診の依頼や調整も可能。	協力医の往診を受ける利用者が増えている。受診結果に変化があった時には電話等で家族に報告している。かかりつけ医受診は家族介助を基本としているが、職員が同行することが多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、関連施設の看護師による、健康状態確認の日を設けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問や電話にて情報交換や相談を実施。 また、退院後の生活の場としての入居受け入れも可能。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針の説明を実施。 看取り期には、医療サービスの導入や他施設への移動の調整を実施。	協力医は24時間対応。医師の判断により家族と話し合っ方針を決定しており、看取りを希望する家族が多い。家族と協力して利用者が安心して最期を迎えられるよう努めている。看取り期には職員間でシュミレーションや話し合いを繰り返し、職員の不安は少ない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや委員会により、急変時の対応を把握してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施。	年2回の訓練では玄関から隣の公園に避難している。非常口は格子戸で段差が大きく、利用者の避難は困難であり、スロープ設置を検討中。運営推進会議で訓練を行ったことがあり、地域の協力の必要性は理解されている。市の指導を受けて洪水マニュアルを含めた災害別マニュアルがされている。食料品等の備蓄は系列の老健で管理しているが、台風時には別途食料を揃えた。持ち出しグッズを少しずつ準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月、接遇に関する委員会を実施。ユマニチュードの考え方を参考に、接し方の勉強会も実施。	管理者は強い言葉遣いにならないように注意している。居室に入るときはノックをするなどプライバシーに配慮している。認知症の利用者に寄り添えるようユマニチュードの技法を1ヶ月毎に変えて勉強している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思を伝えるのが困難な方でも、どういった希望があるか、生活歴等から検討している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを大事に生活を送ってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問美容室にて散髪の機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者委託だが、希望によりテイクアウト等や手作りにて、食べたい物を食べれる工夫をしている。	簡単に調理できる食材業者の献立を使用。畑の収穫物を加えたり、月に何度か弁当やテイクアウトで目先を変え、利用者の楽しみとなっている。ホットケーキなどの手作りを楽しむことがある。コロナ禍で感染対策のグローブ着用が必要であり、利用者が行えることは、お盆拭きくらいになっている。	

茨城県 グループホームいきいきの家笠間

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食事形態での提供。 毎日、食事や水分量の記録をし、血液検査のデータやBMI等から栄養状態評価を実施。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。 歯科通院の支援も実施。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	長期汚染防止の為、こまめに排泄確認を行っている。 オムツ対応にせず、できるかぎりトイレで排泄ができる支援をしている。	日中はトイレでの排泄を支援しており、自立している方もいる。要介護3以上の方にはリハビリパンツやパットなどの介護用品に対し市の補助があり、家族の負担軽減になっている。夜間のおむつ交換は研修を受け、パットを変更して回数を減らすことを検討している。寝返りが困難でエアーマットを使用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療職と連携し、排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低、週2回の入浴。 予定日外でも、状況により入浴できる体制を整えている。	週2回の入浴を基本とし、1日3人、日曜日は予備日としている。2人介助もできるが、浴槽に入らず、シャワー浴になっている方がいる。待っているときに足湯に浸ることができる。ゆず湯など季節の湯を楽しむが、入浴剤の使用はない。着替えは職員と一緒に準備し、足拭きマットは個別に交換している。脱衣所にエアコンが設置され、温度差が解消された。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くなるまでTVを見たり、談話したりと自由な時間を過ごしてもらっている。		



茨城県 グループホームいきいきの家笠間

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や副作用等を把握し、状態観察を行っている。 関連薬局の薬剤師からの服薬指導も受け、薬の知識を増やしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭内で行っていたことを、施設でも行ってもらい役割を持って生活してもらっている。 嗜好品は希望があれば、買い物支援も実施。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度もコロナ対策の為、人の集まる所の外出は制限した。 近隣の散歩等は変わらず実施。	園庭や隣の公園、駅辺りまで散歩に行くことがある。ドライブは、車いすの方が多くなり、長時間の座席が困難で出かけることが少なくなった。 花見はホームや隣の神社の大きな桜を愛でている。デッキで日向ぼっこをするなど外気に触れる時間を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、施設の立て替えにて対応。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務の電話を使用していただいている。 手紙支援も実施中。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は明るさを変えられ、好みの明るさで生活していただいている。 月ごとに掲示物を変え、季節感を味わえる工夫をしている。	中庭が臨めるホールには季節を感じる作品が掲示されており、訪問調査当日はクリスマス一色であった。ユニットによる違いはあるが、塗り絵やかかるた、読書など思い思いのレクに興じ、歌を歌ったり、体操やテレビ、音楽レクを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全部屋個室となっており、一人の時間を思い思いに過ごしていただける。 ホールにはTVやソファを配置し、仲の良い方とのんびりできる工夫をしている。		

茨城県 グループホームいきいきの家笠間

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火の元になる物は制限しているが、その他馴染みの家具等は自由に持ち込んでいただいている。	居室には大きなクローゼットがあるため、ベッド以外の家具は少なく、広くゆったりと使えている。壁には家族の写真や手作りの塗り絵カレンダー、職員からの誕生日カードなどが飾られている。ベッド横の机に本が置かれている部屋もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は滑りずらい素材を使用。段差もなく歩行しやすい。自分で行えることは、なるべく行っていただき残存機能を大事にしている。		

(別紙4(2))

事業所名 : いきいきの家笠間

## 目標達成計画

作成年月日 : 2023年1月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		前年度に引き続き、コロナ化ということもあり外出や家族と会う機会が減っている。	感染状況により、外出による気分転換の機会を増やす。 施設内で行えるレク・行事をより楽しんでもらえる工夫をする。 家族との交流の場の提供。	少人数ずつのドライブや、人の少ない時を狙って近隣に買い物にいったりできるようにする。 対面による面会等にて家族との触れあいの場を増やす。 施設内での行事の回数を増やし、楽しみを増やす。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。